言葉を科学する　人間の再発見

Day 15:

「ことばの使用」の再発見

全体のまとめ「人間の再発見」

1. ことばを「使う」能力
2. 総まとめ
3. この授業のねらい
4. 最後に：言語科学の「実用性」

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

Day 15

1. ことばを使う能力：語用論
2. 総まとめ
3. この授業のねらい
4. 最後に：言語科学の「実用性」

(1) 実際の言語使用

自分の母語の文法的な文を無限に生成する能力

文生成・文理解の潜在的
言語能力（competence）

(1) 実際の言語使用

自分の母語の文法的な文を無限に生成する能力

実際の使用場面ではその中から（ほぼ無意識に）
適切な表現を選んで使っている

運用能力

(1) 実際の言語使用

文字通りの意味だけではない

a.　「もしもし、Aさんいますか？」

（実際に言いたいこと：Aさんに代わってください）

(1) 実際の言語使用

文字通りの意味だけではない

a.　「もしもし、Aさんいますか？」
（実際に言いたいこと：Aさんに代わってください）

b.　「この部屋、寒いね」「この部屋寒くない？」
（実際に言いたいこと：暖房つけてください）

(2)

a.　文字通りの意味　「この部屋寒いね」

b.　話者の意図する意味（暖房つけて）

(2)

a.　文字通りの意味

b.　話者の意図する意味

(2a)と(2b)の関係が、完全にランダムであれば、コミュニケーションが成立しない

(4) 多くの場合、話者の意図が伝わる。

なぜ？

(2a)「文字通りの意味」と(2b)「話者の意図」とをつなぐ、言語使用のルールがあるはず

＝＞ 意味論・語用論

(6)Class work 15-1:「回りくどい言い方ですか」

「この部屋の中少し寒いね」

（発話者の意図は:暖房のスイッチをいれて！）

a. このような言い方をする利点は何だと思うか？

b. このような言い方をする場合の欠点は何かあるだろうか？

(7) ポライトネス(politeness)という考え方

対人関係を円滑にするための社会言語学的行動

(8) 2つの問題

a. なぜ、遠まわしな言い方で通じるのか

b. なぜ、遠まわしな言い方をするのか

(9) Cooperative Principle

（Grice 1975, Logic and Conversation）

会話の目的に合うように適切に発話を行いなさい

(10)　「この部屋少し寒いね」

これを聞いた人はどう思うか：

聞き手の推論の一例

a. 発話者は部屋の状態（に対する話者の感想）を述べている

b. この発話の目的は何だろうか

c. 発話者は寒いことを嫌がっているのかも

d. 発話者は暖かくなればよいと思っているのかも

e. 自分（聞き手）は暖房スイッチのそばにいる

f. 自分に向かって話しかけている

g. 暖房を入れて欲しいという依頼かもしれない

＝＞「暖房を入れましょうか？」

(9)Cooperative Principle

(11)発話者は(9)に従い、その場に最もふさわしい発話の意図が通じるであろうと期待して発話する

(12)聞き手は(9)に従い、その発話にはその場に最もふさわしい発話意図があるだろうと推測する

(13)(回りくどくても・遠まわしでも)意図がうまく通じる(ことが多い)

(14) なぜわざわざ回りくどい・遠まわしな言い方をするのか

(15) ポライトネス理論の説明

a. 人はだれでも自分の自由を制限されたり、行動を邪魔されたりしたくないという欲求をもっている

（=「否定的顔negative face」）

b. 人はだれでも自分の行動や意見がよいものであると認められたいという欲求を持っている

（=「肯定的顔positive face」）

(16)「直接的な依頼」は、相手の行動への介入

a. 依頼をされた人の「negative face」を脅かす発話行為

b. 依頼する人も自分の「positive face」を損なう発話行為

c. 遠まわしな表現で依頼であることを推測してもらうことで、依頼された人のnegative faceも、依頼した人のpositive faceもそこなわれない

ポライトネスを使った例その2

(17)

A: 授業終わったら、一緒にお好み焼き食べに行かない？

B: レポートたまっているんだよね

(18)　　Bは誘いを断っている

なぜ、断りだと解釈できる？

(19) Bの返事を聞いてAが行う推論の一例

a. 行くか行かないか尋ねているのに、それには答えずに、別のことを言い出した

b. レポートがたまっているということと、私が食事に誘ったこととの間に何か合理的な関連があすはずだ（Cooperative Principle(9) による推論）

なぜ、断りだと解釈できる？

c. レポートがたまっていれば、それをできるだけ早く片付けてしまわなければならない。余分な時間はない

d. お好み焼きを友達と食べに行けば、それだけその時間は宿題に回せなくなる

e. だから、きっと私の誘いを断っているのだ

(20)なぜ、遠まわしな言い方をする

(21) ポライトネスによる説明

a. Aはそれが良いことであると思ってBを誘ってくれている

b. 直接的に断れば、Aの「positive face」をつぶしてしまうことになる

c. Bは、遠まわしな言い方で、断っていることをAに推測させることによって、Aのpositive faceをできるだけつぶさないようにしていますよ、というサインを送りながら、意図を伝えようとしている

(22) 人間の実際の言語活動は、文字通りの意味での解釈を超えたものがたくさん

(23) ほとんど慣習化しているものもある

「もしもし、Xさんいますか？」

(24) このような文字通りの意味と話者の意図する意味とのズレも含め、実際の言語運用を社会的な側面も含めて研究する

語用論pragmatics

(25) これも直接的に教わらなくても自然に身につく

Day 15

1. ことばを使う能力：語用論
2. 総まとめ：扱ったトピック
3. この授業のねらい
4. 最後に：言語科学の「実用性」

(26)「単語」の再発見

(27)「言語音」の再発見

(28)「文を組み立てる仕組み」の再発見

(29)「意味」の再発見

(30)「言語獲得」の再発見

(31)「ことばの使用」の再発見

(32)それぞれ、ほんの一部です

ガリレオスタイル（近代科学の考え方）

(33)　とても重要な区別：E言語とI言語

a.　E言語：表に出てくる（見たり聞いたりできる）言語現象

b.　I言語：各自の頭の中のことばを操る仕組み

ガリレオスタイル（近代科学の考え方）

(34)

「E言語」ではなく「I言語」が言語の実体

空気抵抗も摩擦も取り除いた理想化されたものが物理現象の実体

(35) 中谷宇吉郎：雪の結晶の研究

a. 実際に目に見える雪の結晶は「実体（I言語）」ではなく、ノイズの多い物理現象（E言語）

b. 雪の結晶を作るその背後にあるメカニズム（I言語）が実体

Day 15

1. ことばを使う能力：語用論
2. 総まとめ：扱ったトピック
3. この授業のねらい
4. 最後に：言語科学の「実用性」

(36) 科学的言語研究の方法(考え方)とその成果を(一部)紹介

(37) 言語とは何かを考える(生物学的視点から)

(38) 科学とは何かを考える(身近な題材「言語」を利用して)

(39)「あたりまえ」を
不思議に思う持つ心

常識を疑え！

（＜＝やさしくありません）

(39) 「あたりまえ」を
不思議に思う持つ心

広い視野を持て！
（＜＝やさしくありません）

(40)　　自分のこれまでの信念に反することにであったとき

a. よく考えずに反発する？

b. よく考えずに（権威的意見を）鵜呑みにする？

c. 新しいものへの健全な好奇心と、適度の懐疑心のバランス

(41)

自分が思っていたこととは別の視点・考え方がえられればこの授業は成功

Day 15

1. ことばを使う能力：語用論
2. 総まとめ：扱ったトピック
3. この授業のねらい
4. 最後に：言語科学の「実用性」

言語科学はいったい何の役に？

(42) 科学は人を思いこみ（偏見）から自由にしてくれる

方言への思い込み、障害者への思い込み、
子どもの言語獲得への思い込み、外国語学習への思い込み、etc.

人間の言語能力は

(43)

地球上で人間にしかない資質

人間なら誰でも持っている能力

人間が好きになる

自分が好きになる

Thank you very much for …